児童朝会　校長の話　　４月 25 日

この写真を見てください。靴がきれいにそろって靴箱に入っていますね。見ていて気持ちがいいです。実はこれは 4 年 2 組の靴箱の様子です。とてもきれいなので写真に撮ってもらいました。どうして気持ちがいいのか、それが分かる詩があるので読みますから聞いてください。

「はきものをそろえる」

（詩を音読しました。）

長野県の円福寺の藤本幸邦さんという住職さんが作った詩です。「はきものをそろえると心もそろう」「心がそろうとはきものもそろう」というわけです。そして「だれかがみだしていたらだまってそろえておいてあげよう」といっていますね。そうすると世界中の人の心もそろうといっています。

修行するお寺の玄関にこんな立て札がありました。「脚下照顧」と書いてあります。脚は「あし」下は「した」ですので足下です。照は「照らす」顧は「かえりみる」です。つまり「足下を照らして、自分を振り返ってみなさい。」ということです。脚下照顧とは、「はきものを脱ぐときに一度立ち止まってきちんとそろえましょう。そろえることで自分の行いを振り返って心を整えることができます。」という意味になります。

学校では、登校したときに上履きにはきかえて靴をしまいます。下校するときも上履きを脱いでしまいます。トイレでもサンダルにはきかえます。その時に乱雑に脱がず、立ち止まってくつやサンダルをしっかりそろえてみましょう。そうすると心がそろいます。そろっていなかったら、そっとそろえてあげましょう。そうすることでみんなの心がそろいます。

みんなの靴やサンダルがそろったら、素敵なことですね。浅草小学校がみんなでそのように生活できたらいいですね。